



令和4年度～6年度 大阪府委託事業

老人クラブ活動サポート事業

(老人クラブ事務手続き等支援事業)

報告書

一般財団法人 大阪府老人クラブ連合会

はじめに

本報告書は、令和4年度～6年度に一般財団法人大阪府老人クラブ連合会（SC大阪）が大阪府から委託を受けて実施した「老人クラブ活動サポート事業」（老人クラブ事務手続き等支援事業）の成果を取りまとめたものです。

高齢者による地縁組織である老人クラブは、健康づくりや介護予防に資する活動を行うことで高齢者自身の健康寿命を延ばすとともに、これまでの知識と経験を生かし、世代間交流、児童・生徒の登下校時の見守り、高齢者の孤立防止、災害対策などの地域支え合い活動に取り組み、地域の活性化に寄与しています。

ところが、高齢化が急速に進む地域社会において、いま、老人クラブが減少している現実があります。会長などの役員の後継者のなり手がいないために、休会・解散に追い込まれるクラブが相次いでいます。高齢者人口が増加しているのにもかかわらず、新規加入する会員が減少していることも、その要因になっています。

地域包括ケアシステムを構築するうえで重要な社会資源の一つである老人クラブが衰退すると、地域住民同士のつながりがますます希薄化し、各地域で培われてきた地縁による支え合いの仕組みが崩壊しかねません。

この危機的な状況を大阪府も重く見ており、そこで、老人クラブの維持・活性化を図ることで、高齢者の社会参加の場を守るとともに、地域包括ケアシステムの構築に寄与することを目的に、本事業がSC大阪に委託されることとなりました。

事業の遂行にあたっては、各单位老人クラブ、各市町村老人クラブ連合会、各市町村の老人クラブ担当部署をはじめ、多くの方々にご協力をいただきました。皆様に深く感謝の意を表するとともに、本事業の成果が今後の老人クラブ活動の発展に役立つことを願うものです。

令和7年3月

SC大阪 老人クラブ活動支援委員会

目次

第1章 事業の実施内容

1 老人クラブ活動支援委員会の設置・開催	4
2 説明会及び講習会の開催	4
3 アンケート調査の実施	5
4 情報共有会（相談会）の開催	5
5 フォローアップ相談会の開催	6
6 報告書と活動ヒント集の作成	7

第2章 事業を通じて見えてきたこと① 老人クラブの現状と課題

《単位老人クラブの現状と課題》

1 役員の高齢化や女性役員の登用が少ない現状	10
2 活動が固定化（ワンパターン化）している	11
3 煩雑な提出書類や事務作業に手が回らない	11
4 活動内容が正しく認知・啓発されていない	11

《市町村老人クラブ連合会の現状と課題》

1 単位老人クラブ間のコミュニケーションが不足	12
2 クラブの休会・解散に対して有効な対策が打てていない	13

第3章 事業を通じて見えてきたこと② 老人クラブ活性化のための知見

1 組織を変えていくのは、やはり役員（トップ）の本気度	16
2 人材をうまく活用しているクラブは元気がいい	16
3 会員のニーズを取りまとめ、実現しているクラブには活力が生まれる	17
4 小さなことでも皆に伝え、一緒に考える仕組みが大切	17
5 「笑い」と「笑顔」が老人クラブの財産	17

第4章 老人クラブの社会的役割を考える

1 安心安全のまちづくりの要（かなめ）としての役割	20
2 介護費用・医療費抑制のための仕掛けとしての役割	21
3 知識や経験の世代間移転の送り手としての役割	21
4 地域課題解決の主体としての役割	22

第5章 今後の展開に向けて

1 コミュニティ型組織とアソシエーション型組織の結合という展開	24
2 組織にもジェンダーバランスを	25
3 ネットワークとしてのSC大阪の役割は大きい	25

資料

○老人クラブ活動支援委員会 実施一覧	28
○説明会及び講習会 実施一覧	31
○情報共有会 実施一覧	32
○フォローアップ相談会 実施一覧	33

第1章

事業の実施内容

本事業では、以下の6項目の取り組みを実施しました。

1 老人クラブ活動支援委員会の設置・開催

老人クラブの後継者不足解消と会員数拡大を図るため、老人クラブ活動に詳しい有識者等で構成する「老人クラブ活動支援委員会」を設置しました。

構成員は、老人クラブ活動関連有識者2名、市町村老人クラブ連合会職員3名、市町村担当課職員2名、SC大阪職員1名の計8名です。

同委員会では会議を各年度で3回開催し、それぞれの地域の老人クラブの状況の情報交換、事業内容の検討と振り返り、本報告書と後述の『人が集まる老人クラブのつくりかた～会員を増やし、活動を元気にするためのヒント集』の編集などを行いました。

※実施一覧は28～30ページ参照

2 説明会及び講習会の開催

本事業についての説明・協力依頼、老人クラブの活動継続に関する啓発を行うため、各市町村老人クラブ連合会役員・事務局職員、各市町村老人クラブ担当課職員等を対象に、「説明会及び講習会」を各年度で1回、開催しました。

講習会では、老人クラブ活動支援委員会の有識者委員による講演や、後継者問題や会員増強活動で先進的な取り組みをしている単位老人クラブ・市町村老人クラブ連合会による実践報告を実施し、有益な学びの場となりました。

※実施一覧は31ページ参照



説明会及び講習会の様子

3 アンケート調査の実施

現状の老人クラブはどのような組織構成で、どんな活動を展開し、どのような課題と困り事に直面しているのかを把握するため、大阪府内のすべての市町村（政令指定都市の大阪市、堺市を除く）の単位老人クラブと市町村老人クラブ連合会を対象に「アンケート調査」を実施しました。

令和4年7月30日～9月26日の期間に調査票の配布・回収を行い、単位老人クラブ2073クラブ（回収率67.2%）、市町村老人クラブ連合会40連合会（回収率97.6%）から回答を得ることができました。

調査結果は、単位老人クラブ対象のアンケートについては大阪府全体と各市町村ごとで集計を行い、それぞれの市町村の老人クラブの組織の特徴や抱えている課題について分析したうえで、その後の「情報共有会」での提案資料（発題）として報告がされました。

※アンケート集計結果は、令和5年3月発行の『単位クラブの現況と課題についてのアンケート 集計結果報告書』（大阪府全体版、市町村版）、『市町村老連の現況と課題についてのアンケート 集計結果報告書』を参照

4 情報共有会（相談会）の開催

アンケート回答だけでは見えてこないさまざまな問題や地域特性を探るため、各市町村老人クラブ連合会単位で「情報共有会」（相談会）をすべての市町村（大阪市、堺市を除く）で開催しました。

アンケート集計結果から見えてきた課題や問題点を報告しながら、グループに分かれてディスカッション（話し合い）をしてもらうことで、各単位老人クラブが抱えている悩みや困り事を共有してもらい、ネットワークとしての老人クラブ連合会の意味を再確認してもらうと同時に、アンケート回答だけでは見えなかった課題についても認識・共有することができたことは、大きな成果でした。

何より、グループディスカッションではそれぞれのテーブルで活発な話し合いが持たれ、会場が笑い声に包まれたことは、老人クラブの豊かな可能性をあらためて認識できた機会でもありました。

※実施一覧は32ページ参照



情報共有会の様子

5 フォローアップ相談会の開催

アンケート調査や情報共有会から見えてきた課題を解決するための糸口として、また各市町村老人クラブ連合会の活動のサポートとして「フォローアップ相談会」を開催しました。下記の7つのテーマで構成されており、各老人クラブ連合会がそれぞれの課題を認識したうえで選択できるようメニュー化しました。

No.	課題（テーマ）	内容
1	魅力ある活動を取り入れる	①ニュースポーツ体験会（実施方法の指導） ②認知症予防
2	仲間を増やすために	会員増強についての成功事例の紹介
3	クラブをPRする	入会案内チラシ・広報紙等の事例紹介とアドバイス
4	クラブを継続させるために	後継者問題の解決についての成功事例の紹介
5	クラブ運営にICTを取り入れる	スマホの使い方を学び習得する
6	問題は何かを考える	グループディスカッションの実施
7	その他	各老連独自の課題やテーマに応える

このフォローアップ相談会も各市町村老人クラブ連合会で積極的に取り組み、
「クラブの課題に応じたフォローアップができた」「具体的なメニューを選択できたのが良かった」などの評価が寄せられました。なかでも『会員増強についての成功事例の紹介』『後継者問題の解決についての成功事例の紹介』では、他市町村から単
位老人クラブ会長が講師として出向き、市町村の枠を超えた交流が生まれました。

これらの実績は、今後のS C大阪のコンサルティング機能を考えるうえで大きな経験となりました。

※実施一覧は33～37ページ参照



ニュースポーツ体験会（ボッチャ）



会員増強についての成功事例の紹介



広報紙・チラシ作成講座



スマホ講習会

6 報告書と活動ヒント集の作成

3年間の事業を通じて明らかになった課題や問題点を整理し、今後の事業展開や組織改革につないでいくために、本報告書と、単位老人クラブの活動の活性化に役立つ情報を提供する『人が集まる老人クラブのつくりかた～会員を増やし、活動を元気にするためのヒント集』を編集・発行しました。



活動ヒント集

第2章

事業を通じて見えてきたこと①
老人クラブの現状と課題

アンケート調査と情報共有会でほぼ共通して出されたのが、老人クラブへの新規加入者が激減しているという事実でした。各クラブもさまざまな新規加入の取り組みを進めていますが、具体的な成果を上げるまでには至っていない状況が報告されました。高齢者人口が増加しているにもかかわらず、老人クラブの加入率が減り続けている現状に、各市町村老人クラブ連合会、各単位老人クラブとも深刻な危機感を持ちながらも、有効な打開策を打ち出せずにいます。

平成10年の特定非営利活動促進法の制定以降、地域活動の中心的な担い手としての老人クラブの役割が薄れたことや、平成25年、令和3年の高年齢者雇用安定法改正の施行によって定年が延長、廃止され、これまでの「定年＝地域活動＝老人クラブ」の流れが目詰まりを起こしていること、旧来の「老人クラブ」のイメージが決して好意的に捉えられていないことなどがその背景として考えられますが、いずれにせよ、老人クラブの新たな役割創造やイメージの再構築などに取り組み、社会発信するというチャレンジに取り組むことが急務です。

アンケート結果と情報共有会から見えた老人クラブの現状と課題は、以下のよう
にまとめることができます。

単位老人クラブの現状と課題

1 役員の高齢化や女性役員の登用が少ない現状

新規会員が入会しないことで高齢化が一層進んでいます。さらに、3年間のコロナ禍における活動の停滞がそれに拍車をかけています。

そのような中でクラブの運営をつかさどる役員構成が固定化していることも大きな課題です。また、旧来の男性中心の志向は、女性役員の登用を妨げる大きな背景になっています。女性役員の登用は、各地域で老人クラブの活性化を図ることができる実例として報告されていることから、ジェンダーバランスを意識した役員構成についても検討する必要があります。

2 活動が固定化（ワンパターン化）している

活動の内容についても固定化していることが報告されています。とりわけ3年間に及ぶコロナ禍の影響は、活動の固定化を生み出す大きな原因でもありました。

この活動内容の固定化は、高齢者の社会資源が充実する中であっては、活動を形骸化させ、魅力が薄いものになっています。この魅力が薄い活動形態は、老人クラブが本来持っているコミュニティ意識の形骸化にもつながり、人数が減ることですます活動が固定化するという悪循環を生み出しています。

反面、会員数を伸ばしているクラブの状況を見ると、スマホ勉強会、ニュースポーツ、フレイル予防・認知症予防プログラムなど、会員のニーズに合った活動を多様に展開していることが見て取れ、活動内容の見直しは、もはや急務ともいうべき課題です。

3 煩雑な提出書類や事務作業に手が回らない

「行政へ提出する補助金申請のための書類作りや事業完了報告などが煩雑なために、役員のなり手がいない」との意見も情報共有会で数多く報告されました。

名簿の作成や領収書の整理など、確かに高齢者にとっては煩雑で手間のかかる仕事でもあり、できるだけ簡素化が求められますが、市町村によって申請書類が異なっていることが、SC大阪としてもマニュアル化ができないネックとなっています。

市町村老人クラブ連合会においては独自の補助金申請マニュアルや申請ソフトを作成・活用している事例も見受けられ、これらを参考にして統一化を追求していく必要があります。

しかし、行政の補助金（公金）の支給を受けるためには、一定のルールや書式を必要とすることも事実ですから、大阪府を仲立ちとした各市町村への働きかけも重要です。

4 活動内容が正しく認知・啓発されていない

各地域の老人クラブにおいてはさまざまな活動が展開されていますが、この活動内容が老人クラブ会員以外の市民（高齢者）に正しく伝わっていないことから、「老人クラブ＝古臭い」というイメージができあがっているように思われます。

しかし、現在の老人クラブの活動は実に多様になっています。さまざまなサークル活動や健康教室などが取り組まれ、SC大阪においても、健康づくり大学校の取り組みやニュースポーツ体験交流会、スマホ講習会など、実にバラエティに富んだ活動を展開しています。また、安否確認や見守り訪問活動など、地域共生社会を創造するための重要な活動にも取り組んでおり、これらの活動が一般の高齢者に正しく、うまく伝わっていないことが、老人クラブのイメージの固定化になっていることも本事業でも明らかになったところです。

市町村老人クラブ連合会の現状と課題

1 単位老人クラブ間のコミュニケーションが不足

本事業の情報共有会で実施したグループディスカッションは、単位老人クラブ会長からおおむね好評で、「これまで、こうした話し合いの機会がなかった」という新鮮な反応がありました。

老人クラブ活動を活性化するためには、同じ立場の単位老人クラブ同士で悩みを分かち合い、お互いの取り組みに学び合うことが、とても重要です。しかし、多くの市町村老人クラブ連合会では、会長会議など単位老人クラブ会長が集まる機会があっても、連合会と単位老人クラブとの縦のコミュニケーションが主で、単位老人クラブ間の横のコミュニケーションはあまり行われていないと思われます。

市町村老人クラブ連合会の中には、情報共有会を受けて、さらに話し合いを深めようと、その後のフォローアップ相談会でグループディスカッションに取り組んだところもあります。各単位老人クラブをつなぐネットワークである市町村老人クラブ連合会の役割として、今後、会長会議や活動発表会などの際にグループディスカッションを取り入れるなど、単位老人クラブ間のコミュニケーションの機会を積極的に持ってみてはどうでしょうか。

2 クラブの休会・解散に対して有効な対策が打てていない

本事業における課題の一つである単位老人クラブの休会・解散対策は、一単位老人クラブだけで解決できる問題ではなく、市町村老人クラブ連合会として取り組んでいく必要があります。しかし、多くの連合会では、なかなか有効な対策を打つことができていません。

連合会によっては、単位老人クラブからの困り事の相談に応える「よろず相談窓口」の設置や、連合会役員が各校区に出向いて単位老人クラブ役員と懇談する「地域別懇談会」の開催などで、休会・解散の危機にあるクラブの状況を早期に把握し、地域と連携しながらクラブの継続や復活に向けて動いている例もあります。そうした先進的な取り組みも参考に、府内すべての市町村において具体的な休会・解散対策を進めていくべきです。

単位老人クラブがすでに休会・解散している地域の会員の受け皿として、連合会直轄のクラブを設置する連合会も増えています。しかし、そうした活動のあり方は、地域に根ざした組織という老人クラブ本来の役割と矛盾しており、短期的な対応策としてはやむを得ないものの、長期的には、やはり各地域で単位老人クラブの活動を盛り上げていかなければならないでしょう。

第3章

事業を通じて見えてきたこと② 老人クラブ活性化のための知見

本事業の情報共有会で府内すべての市町村老人クラブ連合会（大阪市、堺市を除く）に赴き、各老人クラブの活動内容や困り事などを直接、生の声でお聞きする機会を得たことは大きな成果でもありました。その中で、厳しい状況にもかかわらず、活動に工夫を凝らし、さまざまな取り組みで活性化を図っているクラブの姿を垣間見ることができ、苦労されている役員の皆さんから、たくさんのことを教えていただきました。

これは私たちに老人クラブの将来への希望を抱かせるものであり、今回の取りまとめの大きなヒントとなりました。

1 組織を変えていくのは、やはり役員（トップ）の本気度

活性化が図れているクラブの役員さんの話から感じたことは、皆さん、熱い思いを持っておられるということでした。「いくつも失敗してきたけど、チャレンジすることが大切」「みんなに助けられて、自分自身がやりがいを感じている」など、笑顔で話される言葉の中に大事なヒントがあることを痛感しました。

この「思い」こそ、老人クラブを変革していく大きな原動力であることをあらためて共有する必要があります。言い換えれば、トップの本気度が組織を変えていく最大のカギであるという事実です。

2 人材をうまく活用しているクラブは元気がいい

人材をうまく活用しているクラブの活動は、多様で面白く、活力があります。高齢者はついこの間まで、社会を作ってこられた主人公でした。知恵も経験もスキルも持っておられます。老人クラブは言うならば「人材の宝庫」なのでしょう。

この多様な人材とスキルを活かさない手はありません。人材を既存の老人クラブの活動や組織に無理やりはめ込むのではなく、むしろ人材を活かすためにクラブの活動内容や組織形態を変えるぐらいの大胆さが求められています。

3 会員のニーズをうまく取りまとめ、実現しているクラブには 活力が生まれる

会員のニーズを把握し、やりたいことを形にしているクラブの活動には勢いがみられました。会員の興味やニーズと多様で多彩な人材を結び付け、老人クラブの枠組みを使って組織化していく。会員それぞれの自己実現を応援できるのも老人クラブの大きな魅力です。

会員増強を図ることを第一義とするのではなく、高齢者のさまざまな自己実現ニーズを支援すれば、結果としてクラブの活性化が図れるのではないのでしょうか。

4 小さなことでも皆に伝え、一緒に考える仕組みが大切

これは、組織成功の秘けつとして広く伝えられていることですが、老人クラブの性格に最もよく適合すると思われまます。

一つひとつの成果を会員全員で確かめ合いながら、喜びや問題点を共有していくことが重要です。「役員だけが知っていればよい」では、次の役員候補も生まれませんし、当事者意識が働きません。クラブの成果が一人ひとりの成果につながるような、そんな仕掛けが必要です。

5 「笑い」と「笑顔」が老人クラブの財産

一人暮らしの高齢者の中には、一日中、誰とも会話をせずに過ごす人も少なくありません。テレビを相手に笑うこともできますが、笑いは人との会話や交流の中から生まれることが大事です。

老人クラブの真骨頂は「笑い」と「笑顔」にあるのです。それは健康にプラスになるだけでなく、地域課題を皆で考えていこうという意欲にもつながります。「笑う門にはクラブあり」の精神で、活動を積極的に進めていきましょう。

第4章

老人クラブの社会的役割を考える

老人クラブは、もう地域社会や高齢者に必要のない組織になったのでしょうか。決してそうではないはずです。むしろ、これからの地域共生社会を創造するための重要な中心となるべき当事者組織であるということがいえます。

大阪府が令和6年3月に策定した「大阪府高齢者計画2024」においても、「老人クラブの友愛精神による地域での福祉活動は先駆的に取り組まれてきた互助活動であり、新しい総合事業のサービスの担い手としての役割も期待されています」と記載され、コミュニティ感覚を保持した組織としての老人クラブの役割が再認識されています。

老人クラブの果たすべき役割について、あらためて考えてみましょう。

1 安心安全のまちづくりの要（かなめ）としての役割

阪神・淡路大震災の際に生き埋めなどになった要救出者約35,000人のうち、「約8割の27,000人が家族や近隣者により救助された」といわれています（平成15年版防災白書）。また、台風などの風水害での避難において、避難行動を取る最後のきっかけ、いわゆる「避難トリガー」は、近所の人「一緒に逃げよう」という呼びかけであるともいわれています。

隣近所同士で助け合う共助の大切さは、国が目指そうとしている地域共生社会の基礎でもあります。実際に被災した時、どれだけ実践できるかは顔の見える普段の地域活動を展開していることが何よりも重要です。その点、「地域の誰が要援護者か」「どの場所が危険か」「子どもに連絡が必要」など地域事情を熟知し、課題や問題点も理解しているのは、地域を拠点に活動している老人クラブの得意とするところであり、他の市民団体では決して真似のできない実践です。

また、大阪府ではSC大阪に約10万人の会員が組織されており、これら高齢者の安否確認が即座にできる組織は他に類を見ず、この役割を老人クラブも行政も市民も再認識することが重要であるといえます。

2 介護費用・医療費抑制のための仕掛けとしての役割

日本老年学的評価研究（JAGES）の研究によると、①人との交流が多いと健康にプラス（交流が月1回未満と少ない人は、1.3倍早く亡くなりやすい）、②運動は仲間とすると健康にプラス（頻繁に運動しても、グループに参加していないと要介護に至る可能性が高まる）、③サロンへの参加は健康にプラス（サロンに参加している人たちは、要介護認定率が低い）、④笑いのある生活が健康にプラス（笑わない人は、脳卒中になるリスクが1.6倍増える）、⑤地域組織への参加は健康にプラス（地域組織参加率が高いと、認知症リスク者割合が減少）、⑥地域で役割を担って長生きしよう（地域で役割のある高齢者は、長生きしやすい）という結果が発表されています（公益財団法人全国老人クラブ連合会『組織活動は健康長寿の秘訣』より）。

老人クラブのさまざまな活動や仲間づくりが健康長寿にプラスの影響を与える可能性が高いことが示されたといえます。これは翻って見れば、各自治体の介護費用や高齢者医療費の抑制につながっているといえるのではないのでしょうか。

高齢者にとって健康で長生きできるほど幸せなことはありません。これまで健康は個人の努力と考えられてきましたが、仲間と一緒に笑い、語り、交流することに大きな効果が期待できる老人クラブの役割は、もっと見直されるべきです。

3 知識や経験の世代間移転の送り手としての役割

核家族化が進展し、個住化が増える社会において、これまで祖父母世代から親世代へ、親世代から子どもたちへ伝えてきた生活の知恵、積み重ねてきた経験が世代間を超えて伝わらなくなり、社会の規範や文化が希薄なものになっています。

地域社会が大事にしてきた絆や信頼は教えるものでなく、伝えていくものとして位置づいています。これらの知恵や経験を、これからは社会が伝える役割を果たさなければなりません。言い換えれば、「家族機能の社会化」ともいうべき課題です。

これの主人公、送り手になり得るのが、地域社会に根付いている老人クラブの役割ではないのでしょうか。また、「戦争体験を語る」「震災の状況を語る」といった、ともすれば社会が忘れてしまいがちになる人間の経験を身近な地域コミュニティの中で伝えていくことも、老人クラブの重要な役割です。

4 地域課題解決の主体としての役割

地域でのつながりの希薄化や単身高齢世帯の増加などで、社会的孤立が進み、誰にも相談できない状態の中、地域から孤立して問題を深刻化させるケースが増大しています。国は「地域共生社会」を打ち出し、行政だけでなく、さまざまな担い手によるインフォーマルサービスを幾重にも重ねて支援体制を展開しようとしています。行政に問題が持ち込まれるのは、どうにもならない深刻な状況になってからがほとんどで、解決の道筋が極めて困難な状況になっています。

もっと早く、社会的困難を抱える住民を適切な支援につなげるためには、身近な地域での付き合いや日々の暮らしの中での日常的な見守りなど、地域でのつながりが必要と思われます。

この問題に最も可能性を見出せる組織こそ、老人クラブだといえます。普段から地域で生活し、活動する老人クラブは地域社会の一員として、問題の発生から複雑化するまでの経過や問題点を最もよく知っています。この特性をうまく活かすことで、地域課題解決の主体としての役割が期待できるのではないのでしょうか。

第5章

今後の展開に向けて

1 コミュニティ型組織とアソシエーション型組織の結合という展開

アメリカの社会学者マッキーバーは、地域社会の組織形態として、「コミュニティ」と「アソシエーション」という2つの組織類型があることを明らかにしました。コミュニティ型組織とは、家族構成を基礎とした近隣・地域型の組織で、自治会・町会などが代表的なものです。一方、アソシエーション型組織とは、特定の趣味や目的を共通項として集まる集団のことで、サークル活動やNPOなどが代表的なものです。別の言い方をすると、コミュニティ型組織は「宿命型集団」、アソシエーション型組織は「契約型集団」と分けることもできます。

では、老人クラブはどちらの類型に入るのでしょうか。老人クラブのこれまでの性格や活動からいうと、明らかにコミュニティ型組織に分類されると思われます。いわゆる「宿命型」です。A市に居住する高齢者がB市の老人クラブに入りたいと思っても加入できません。C自治会に居住していれば、D町会の老人クラブにはなかなか加入できません。地域で長く暮らしてきた中での先輩・後輩関係や母屋・分家などの上下関係など、この逃げられない関係の閉塞性と従属感が老人クラブの「煩わしい」「うっとうしい」というイメージの固定化につながっていると思われます。

一方、アソシエーション型組織として、例えば高齢者大学校などは、学ぶという共通の目的でつながり、講師の前では皆が受講生という対等な関係で相互依存の関係ができあがっており、いわば「契約型」であり、心地良いのかもしれませんが。

この違いが、組織の活性化具合に大きな違いを生んでいる原因の一つであると思います。しかし、地域を拠点に活動を展開しているからこそ、見えてくることや果たせる役割も大きいものが存在します。「宿命型」であるからこそ、人間の生活の避けては通れない、例えば、安心・安全や地域課題解決等の部分に深く関わっていただけるのです。また、これからの長い高齢期を自立して暮らすには、地域を基盤にした高齢者同士の互助関係が必然でもあります。

この老人クラブの良さや欠点を正しく認識しながら、新しい活動を創造することが望まれています。その意味で、本事業から見えてきた活性化の最初の提案は、高齢者のニーズを多彩に取り入れたアソシエーション型活動を積極的に展開していくということです。それは、これまでの単位老人クラブ内での講習・講座活動やサークル活動という枠の狭い活動に留まるのではなく、市町村老人クラブ連合会単位でさまざまなサークルや趣味講座・高齢者大学などのニーズの高い「学び直し」の支援を企画・展開し、会員だけでなく広く高齢者に呼びかけて事業展開にチャレンジしてみるということです。その際、老人クラブ会員と非会員の間で参加費等の差をつ

けることで、老人クラブの加入促進にもつなげていくことができます。

これまでの補助金と会費だけの運営形態を脱して、利用料徴収も選択肢に入れた活動を模索することで、「求められるものは何か」「売れる商品は何か」を考えざるを得ない環境に組織を置くことで、より課題が鮮明になるように思われます。当面は幾つかのモデル老連を決めて、ノウハウの構築と効果測定に取り組みたいものです。

2 組織にもジェンダーバランスを

大阪府内の老人クラブの会員の男女比は男性37.5%、女性62.5%となっており、女性が6割以上を占めています。しかし、単位老人クラブ会長の男女比は男性77.7%、女性19.1%、無回答3.2%と、圧倒的に男性中心の構成になっています。これまでの地域社会の役割分担が色濃く反映されているのでしょう。

男性か女性かという表面的な問題だけでなく、男性が中心になることを当たり前と考える意識構造や組織倫理そのものが、老人クラブの「古臭い」「うっとうしい」というイメージの一つの要因になっていると思われる。

ここは大胆に女性の登用を意識して図っていくことが、組織を変えるためには極めて重要です。つまり女性役員の登用は社会意識や固定概念への挑戦です。そのためには、数年かけて女性登用が図れる気運づくりを進める必要があります。「出しゃばるな」「女のくせに」ではなく「女性だから」「女性にしか」の発想に組織も行事も変えていきましょう。

SC大阪においても意識して女性会長等の出番づくりを模索し、大阪府の老人クラブが全国の最先端となれるよう、改革を進めていきましょう。

3 ネットワークとしてのSC大阪の役割は大きい

平成29年、国は社会福祉法を改正して「地域共生社会」というコンセプトを打ち出し、これからの地域福祉の主人公は地域住民であるとししました。ともすれば古臭い時代遅れのように認識されていた自治会や老人クラブの出番であることを表現したのだと思います。地縁組織の再生なくして地域福祉の再生はありえないということでしょう。老人クラブにとっては願ってもないチャンスです。

この好機を生かすためには、情報・政策・行動を一致させる必要があります、まさに

ネットワークとしてのSC大阪の出番であると思います。新しい時代のクラブ活動を創造するためには、政策提言や制度要求など、ネットワークであるからこそその役割が求められることは明らかです。今回の「大阪府高齢者計画2024」の作成においても、SC大阪として委員を選出し発言することで、老人クラブの役割が明記されてきました。ネットワークとしてのSC大阪の意義を各市町村老人クラブ連合会、単体老人クラブが考えていく必要があります。

また、SC大阪自身も、これまでの上部団体的取りまとめ組織から進化して、情報発信・政策提案・活動企画ができるコンサルタント的指導力を持つことが求められています。その意味で、今回の老人クラブ活動サポート事業は、その可能性と新たな役割を見出すきっかけとして大きな意味のある事業であったといえます。

資料

【老人クラブ活動支援委員会】

R4年度～R6年度 実施一覧

日付	会議名	内 容
R4.4.22	令和4年度 第1回 老人クラブ 活動サポート事業 活動支援委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老人クラブ活動サポート事業について <ol style="list-style-type: none"> ①事業の目的・内容 ②活動支援委員会の役割 ③事業スケジュール 2. 各市町村老連から現状と課題の報告 3. 協議 <ol style="list-style-type: none"> ①アンケート調査について ②説明会について
R4.9.6	令和4年度 第2回 老人クラブ 活動サポート事業 活動支援委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 説明会（動画配信）について 2. アンケートの配布状況 3. 情報共有会（相談会）の実施について
R5.3.7	令和4年度 第3回 老人クラブ 活動サポート事業 活動支援委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 説明会及び講習会の実施状況について 2. 情報共有会（相談会）の実施状況 3. 単位クラブ対象アンケート集計の状況 4. 老人クラブ活動への支援状況に関する 市町村担当課へのアンケートについて 5. 令和5年度の事業実施について
R5.5.19	令和5年度 第1回 老人クラブ 活動サポート事業 活動支援委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和4年度事業報告 <ol style="list-style-type: none"> ①活動支援委員会の実施報告 ②説明会及び講習会の実施報告 ③アンケート調査の結果報告 ④情報共有会（相談会）の実施報告 2. 令和5年度の事業実施について <ol style="list-style-type: none"> ①事業の目的・内容 ②事業の具体的内容及びスケジュールについて <ul style="list-style-type: none"> ・活動支援委員会 ・説明会及び講習会 ・情報共有会（相談会） ・フォローアップ相談会 3. 協 議 <ol style="list-style-type: none"> ①フォローアップ相談会の内容について ②最終年度に向けての成果物の作成について

日付	会議名	内 容
R6.1.19	令和5年度 第2回 老人クラブ 活動サポート事業 活動支援委員会	1. 令和5年度の事業実施状況について ①情報共有会（相談会）の実施状況 ②フォローアップ相談会の実施状況 2. 令和6年度の事業実施について ①説明会及び講習会 ②情報共有会（相談会） ③フォローアップ相談会 ④活動支援委員会 ⑤成果物の作成
R6.3.12	令和5年度 第3回 老人クラブ 活動サポート事業 活動支援委員会	1. 令和5年度の事業実施状況について ①情報共有会（相談会） ②フォローアップ相談会 2. 令和6年度の事業実施について 令和6年度事業概要について ①活動支援委員会 年3回実施 ②説明会及び講習会について ③情報共有会（相談会） ④フォローアップ相談会 3. 成果物の作成について ①報告書の骨子について ②活動事例等について ③各委員からの意見
R6.5.21	令和6年度 第1回 老人クラブ 活動サポート事業 活動支援委員会	1. 令和6年度の事業実施予定について ①説明会及び講習会 ②情報共有会（相談会） ③フォローアップ相談会 2. 成果物の作成について ①報告書の骨子について ②報告書についての提案 ③活動事例等について ④各委員からの提案

日付	会議名	内容
R7.1.27	令和6年度 第2回 老人クラブ 活動サポート事業 活動支援委員会	1. 令和6年度の事業実施状況について ①情報共有会（相談会） ②フォローアップ相談会 2. 成果物の作成について ①報告書構成案について ②「会員を増やし、活動を元気にするための ヒント集」について ③制作スケジュールについて
R7.2.25	令和6年度 第3回 老人クラブ 活動サポート事業 活動支援委員会	1. 令和6年度の事業実施状況について ①情報共有会（相談会） ②フォローアップ相談会 2. 成果物の作成について ①報告書（案）について ②「会員を増やし、活動を元気にするための ヒント集」（案）について ③制作スケジュールについて ④配布部数について

【説明会及び講習会】

R4年度～R6年度 実施一覧

日付		内 容
R4.7.25	令和4年度 説明会及び 講習会	<p>※コロナ感染拡大のためユーチューブ配信にて実施</p> <p>1. 説明会「老人クラブ活動サポート事業について」 ①事業の目的と概要（大阪府） ②今後のスケジュール、アンケート調査について（SC大阪）</p> <p>2. 講習会「老人クラブ活動の継続と活性化を考える」 進行：老人クラブ活動支援委員会委員 合田 享史 氏 事例発表① 豊能町・SC東ときわ台 会長 守田 安秀 氏 事例発表② 松原市・城連寺シニアクラブ 会長 坂田 繁数 氏</p>
R5.7.3	令和5年度 説明会及び 講習会	<p>1. 説明会「老人クラブ活動サポート事業について」 ①事業の目的と概要（大阪府） ②アンケート結果から考える 今後の老人クラブ活動支援の方向性 老人クラブ活動支援委員会委員 合田 享史 氏 ③令和4年度 事業報告 ④令和5年度 取り組みとスケジュールについて（SC大阪） ⑤老人クラブの活性化をめざして 老人クラブ活動支援委員会委員 大北 規句雄 氏</p> <p>2. 講習会「単位クラブ活動の継続と活性化を考える」 進行：老人クラブ活動支援委員会委員 合田 享史 氏 事例発表① 松原市・天美北天寿会 会長 木下 あけみ 氏・副会長(前会長) 坂本 マリ子 氏 事例発表② 河内長野市・荘園町ことぶき会 会長 松本 守 氏</p>
R6.7.16	令和6年度 説明会及び 講習会	<p>1. 説明会「老人クラブ活動サポート事業について」 ①事業の目的と概要（大阪府） ②令和5年度 事業報告・令和6年度 事業予定について（SC大阪）</p> <p>2. 講演「老人クラブ活動サポート事業」を通してみてきたこと 老人クラブ活動支援委員会委員 大北 規句雄 氏</p> <p>3. 講習会「老人クラブ活動の継続と活性化に向けて」 進行：老人クラブ活動支援委員会委員 合田 享史 氏 事例発表① 貝塚市・沢 浦田老人クラブ 会長 新谷 洋二 氏 事例発表② 富田林市・寿宝会 会長 奥野 恭 氏 富田林市シニアクラブ連合会 会長 田中 優子 氏</p>

【情報共有会】

R4年度～R6年度 実施一覧

内 容			
<ul style="list-style-type: none"> ・「単位クラブの現状と課題についてのアンケート」集計結果報告・意見交換 ・グループディスカッション 単位クラブの活動でいま困っていること、助けてもらいたいこと			
日付	市町村	日付	市町村
R4.11.21	豊能町	R5.10.4	千早赤阪村
R4.12.20	四條畷市	R6.1.17	吹田市
R4.12.23	大東市	R6.2.5	守口市
R5.1.6	島本町	R6.2.26	岸和田市
R5.2.7	河内長野市	R6.3.6	枚方市
R5.2.14	高石市	R6.6.5	太子町
R5.2.15	泉大津市	R6.6.13	忠岡町
R5.2.22	田尻町	R6.6.17	箕面市
R5.3.9	豊中市	R6.6.20	泉南市
R5.3.15	交野市	R6.7.2	摂津市
R5.3.17	松原市	R6.7.19	門真市
R5.3.20	藤井寺市	R6.8.5	岬町
R5.6.21	和泉市	R6.8.6	八尾市
R5.7.13	羽曳野市	R6.8.9	柏原市
R5.7.21	熊取町	R6.9.10	大阪狭山市
R5.7.27	阪南市	R6.9.13	高槻市
R5.8.2	河南町	R6.9.19	泉佐野市
R5.8.24	貝塚市	R6.11.13	能勢町
R5.8.28	池田市	R7.1.24	寝屋川市
R5.8.31	富田林市	R7.2.6	東大阪市
R5.9.6	茨木市		

【フォローアップ相談会】

R5年度～R6年度 実施一覧

日付	市町村	内 容
R5.7.8	豊能町①	ニュースポーツ体験会（公式ワナゲ） NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏
R5.9.27	豊能町②	グループディスカッション S C大阪 事務局長 山田 典子
R5.9.27	河内長野市①	ニュースポーツ体験会（ボッチャ） NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏
R5.10.10	S C大阪①	スマホリーダー養成講座① NPO法人茨木シニアICTアソシエーション
R5.10.11	羽曳野市	ニュースポーツ体験会（公式ワナゲ） NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏
R5.10.19	S C大阪②	スマホリーダー養成講座② NPO法人茨木シニアICTアソシエーション
R5.12.6	河南町①	老人クラブのあり方 老人クラブ活動支援委員会委員 大北 規句雄 氏
R5.12.13	豊中市①	ニュースポーツ体験会（公式ワナゲ） NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏
R6.1.15	豊能町③	スマホ講習会① NPO法人茨木シニアICTアソシエーション
R6.1.16	四條畷市①	ニュースポーツ体験会（ボッチャ） NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏
R6.1.22	藤井寺市①	スマホ講習会① NPO法人茨木シニアICTアソシエーション
R6.1.25	河内長野市②	老人クラブのあり方 老人クラブ活動支援委員会委員 大北 規句雄 氏
R6.1.26	豊能町④	スマホ講習会② NPO法人茨木シニアICTアソシエーション

日付	市町村	内 容
R6.1.31	富田林市①	後継者問題を考える学習会 老人クラブ活動支援委員会委員 合田 享史 氏 事例報告① 河内長野市・中片添いちご会 会長 前川 守 氏 事例報告② 富田林市・寿宝会 会長 奥野 恭 氏
R6.2.2	島本町	会員増強研修会 老人クラブ活動支援委員会委員 合田 享史 氏 事例報告① 藤井寺市・野中遊楽会 会長 林 均 氏 事例報告② 富田林市・寿美々丘すみれ会 会長 富田林市シニアクラブ連合会 会長 田中 優子 氏 事例報告③ 島本町年長者クラブ連合会 事務局長 宮本 茂敏 氏
R6.2.15	熊取町	会員増強研修会 老人クラブ活動支援委員会委員 合田 享史 氏 事例報告① 交野市・倉治シニアクラブ さんゆう会 会長 交野市星友クラブ連合会 会長 青山 雅宏 氏 (S C大阪 副会長) 事例報告② 熊取町・若葉長生会 会長 御前 照美 氏
R6.2.16	高石市①	会員増強のための広報紙・チラシ作成講座 老人クラブ活動支援委員会委員 合田 享史 氏
R6.2.26	藤井寺市②	スマホ講習会② NPO法人茨木シニアICTアソシエーション
R6.2.28	和泉市①	会員増強のための広報紙・チラシ作成講座 老人クラブ活動支援委員会委員 合田 享史 氏
R6.2.29	池田市①	ニュースポーツ体験会（公式ワナゲ） NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏
R6.3.1	交野市①	ニュースポーツ体験会（ボッチャ） NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏
R6.3.5	貝塚市	老人クラブのあり方 老人クラブ活動支援委員会委員 大北 規句雄 氏

日付	市町村	内 容
R6.3.5	大東市	ニュースポーツ体験会（ボッチャ） NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏
R6.3.7	四條畷市②	ニュースポーツ体験会（ボッチャ） NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏
R6.3.7	田尻町	老人クラブのあり方 老人クラブ活動支援委員会委員 大北 規句雄 氏
R6.3.7	交野市②	防災は日頃の心構えと備えから 防災士 大橋 史拓 氏
R6.3.11	四條畷市③	ニュースポーツ体験会（ボッチャ） NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏
R6.3.12	阪南市	ニュースポーツ体験会（ボッチャ） NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏
R6.3.14	藤井寺市③	スマホ講習会③ NPO茨木シニアICTアソシエーション
R6.3.19	和泉市②	ニュースポーツ体験会（ボッチャ） NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏
R6.6.3	岸和田市	老人クラブのあり方 老人クラブ活動支援委員会委員 大北 規句雄 氏
R6.6.11	枚方市①	老人クラブのあり方 老人クラブ活動支援委員会委員 大北 規句雄 氏
R6.8.27	富田林市②	会員増強研修会 老人クラブ活動支援委員会委員 合田 享史 氏 事例報告 藤井寺市・丹北小山長寿会 会長 田代 逸男 氏
R6.9.2	八尾市①	ニュースポーツ体験会（ボッチャ） NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏
R6.9.19	枚方市②	ニュースポーツ体験会（ボッチャ） NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏

日付	市町村	内 容
R6.9.30	忠岡町①	スマホ講習会① NPO茨木シニアICTアソシエーション
R6.10.2	河南町②	ニュースポーツ体験会（公式ワナゲ） NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏
R6.10.2	太子町①	スマホ講習会① NPO茨木シニアICTアソシエーション
R6.10.7	忠岡町②	スマホ講習会② NPO茨木シニアICTアソシエーション
R6.11.6	太子町②	スマホ講習会② NPO茨木シニアICTアソシエーション
R6.11.11	池田市②	スマホ講習会① NPO茨木シニアICTアソシエーション
R6.11.25	池田市③	スマホ講習会② NPO茨木シニアICTアソシエーション
R6.11.26	八尾市②	老人クラブのあり方 老人クラブ活動支援委員会委員 大北 規句雄 氏
R6.12.3	大阪狭山市	運動・食事の視点から考える認知症予防 大阪狭山市地域包括支援センター 岩橋 真美 氏
R6.12.5	豊中市②	老人クラブのあり方 老人クラブ活動支援委員会委員 合田 享史 氏 事例報告① 桜寿会 会長 細井 莞壽 氏 事例報告② 南桜塚ことぶき会 会長 西谷洋子 氏 事例報告③ 庄内東グループ長 東 賢次 氏 事例報告④ 桜ヶ丘シニアクラブ 会長 藤田 征夫 氏
R6.12.5	交野市③	ニュースポーツ体験会（ボッチャ） NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏
R6.12.11	守口市	ニュースポーツ体験会（モルック） NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏

日付	市町村	内 容
R6.12.16	箕面市	老人クラブのあり方 老人クラブ活動支援委員会委員 大北 規句雄 氏
R7.1.14	富田林市③	老人クラブのあり方 老人クラブ活動支援委員会委員 大北 規句雄 氏
R7.1.15	泉大津市	老人クラブのあり方 老人クラブ活動支援委員会委員 大北 規句雄 氏
R7.1.21	摂津市①	会員増強研修会 老人クラブ活動支援委員会委員 合田 享史 氏 事例報告 交野市・倉治シニアクラブ さんゆう会 会長 交野市星友クラブ連合会 会長 青山 雅宏 氏 (SC大阪 副会長)
R7.1.21	摂津市②	会員増強研修会(グループディスカッション) 老人クラブ活動支援委員会委員 合田 享史 氏
R7.1.24	河内長野市③	会員増強のための広報紙・チラシ作成講座 老人クラブ活動支援委員会委員 合田 享史 氏
R7.2.12	富田林市④	ニュースポーツ体験会(モルック) NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏
R7.2.20	泉佐野市	ニュースポーツ体験会(公式ワナゲ) NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏
R7.2.21	高石市②	老人クラブのあり方 老人クラブ活動支援委員会委員 大北 規句雄 氏
R7.2.25	豊中市③	ニュースポーツ体験会(モルック) NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏
R7.2.27	和泉市③	ニュースポーツ体験会(モルック)① NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏
R7.2.27	和泉市④	ニュースポーツ体験会(モルック)② NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏
R7.3.4	柏原市	ニュースポーツ体験会(公式ワナゲ) NPO法人フレンドリー情報センター 西尾 和久 氏

令和4年度～6年度 大阪府委託事業
老人クラブ活動サポート事業（老人クラブ事務手続き等支援事業）
報告書

令和7年3月発行

編集 SC大阪 老人クラブ活動支援委員会

発行 SC大阪（一般財団法人 大阪府老人クラブ連合会）

〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4番15号 大阪府社会福祉会館内

電話 06-6761-6480 FAX 06-6765-3302

ホームページ <https://www.sc-osaka.org/>
